

自動車ディーラー女性整備士の活躍

若い女性整備士の話です。

職業上色んな方々と出会うことがあり、生活様式や流行が人々の外見に反映され、特に、女性は年代には関係なく服装や化粧品は素敵に進化しています。

去年の秋、大手系列ディーラー南陽営業所へ車検に出したときの話です。夕方、車を引き取りに行きお茶を飲みながら待つと、20代前半と思われる女性の整備士さんから車検整備の内容説明がありました。

最初は、今は色んな分野で女性が活躍しているなあくらの気持ちで、慣れない口調で時々詰まる場面もありましたが、丁寧な説明を受けておりました。そして、説明の途中で、彼女の手のひらや指、特に爪の隙間には仕事での汚れが入り込んでいることに気付きました。その瞬間、私は体が固まり、彼女の説明が耳に入らなくなり、どう感謝の言葉を伝えてよいのか迷いました。

整備については、あなたの手のひらを見れば一所懸命に整備してくれたこと、十分満足でした。

けっして彼女に同情するものではなく、彼女の仕事に対する姿勢や、信念を持って整備士として安心・安全を届けたいという思いが強く伝わってきたのです。最近、年代に関係なく爪のお手入れがブームで、爪装飾のネイルなどは目を見張る場面に遭遇することも多くあります。そんな中、女性整備士の彼女は、私には衝撃的で、何かしら声を掛けたかったのですが、適切な言葉が出てこなかったのです。

結局、ありきたりのお礼を伝えたのみで、帰りの車の中では、励ましの言葉を掛けてあげられなかったことを悔やみ反省することとなりました。感謝や励ましの言葉は、その瞬間に伝えないと鮮度が低下します。「苦労するところにこそ本物がある。頑張った分、自分の糧となる」くらいは伝えたかった。相手が若い女性だったことに躊躇したことも事実でした。

なぜ体が固まったのか、私自身はサービス業に42年従事していますが、常に「心配り」を企業理念にホテルを営んできました。私生活での出来事であれ、瞬時に最高の感謝の言葉を選ぶことができなかったこと、固定的な観念で生きていること、ロータリアンとしてまだまだ勉強とトレーニングが必要と感じました。美しさとは、外見だけを追求するものではなく、内面の美しさがあってこそ本物に近づけるのではと教えられました。

多分彼女は、自動車の整備が好きで、整備士としての誇りを持った芯の強い女性と想像する。頑張る若手の社員が世間に出てアピール出来る場面や機会があれば、地方の原動力となり、我々経験者がそれをサポートしたり交流できる社会を造ることができれば、地方再生の一つになるのではと考えます。

彼女の頑張りとお会いして、日常の生活にはない新鮮で貴重な体験に感謝しているところ、私もあと少し頑張らなくてはと刺激を受けました。